

新聞@スクール

KDDMM

俳句

選者・高柳克弘

山奥や海岸といった自然の中に行かなくては俳句が作れないわけではありません。たとえば、窓をあけると吹きこんでくる南風。庭に飛んできたテントウムシや、食卓にのぼるタケノコごはん。季節を感じる題材を、おうちでも見つけてみましょう。



イラスト・松原由香

たかやなぎ・かつひろ 1980年生まれ。句集「未踏」で第一回田中裕明賞受賞。芭蕉の俳句を研究。

春風に一目ぼれする子猫かな

東京都 江東区立八名川小学校6年

北原凜

【評】子猫がじっと見つめるその視線の先には、木々の新芽を揺らして過ぎる春の風。きらきらとかがやくような風に「一目ぼれ」したというのは、みずみずしい発想でした。今にも春風を追って飛び出していきそうな子猫が、かわいらしいですね。

なの花がみをのりだしてわらわらてる

埼玉県 狭山市立堀兼小学校2年

奥富夢香

【評】菜の花が、こんもりとあつまってさいているところをよんだのでしよう。「みをのりだしてわらわら」というのは、おかしくってたまらないうような感じ。菜の花のあかるいきいろを、あけっぴろげなわらわら方にとえたのは、ぴったりでした。

休校でハクモクレンがおるすはん

千葉県 千葉大学教育学部付属小学校3年

阿部雄稀

【評】拡大する感染症の影響で休み中の学校。「おるすはん」という言葉が心にしみみます。子どもたちが帰ってくるのを、ハクモクレンの木は静かに待っているのです。いつかまた、あの木に再び会えますように。作者の祈りの声が聞こえてきます。

お花見でこめつぶひろうありかぞく

東京都 江東区立越中島小学校3年

今永ひかり

【評】お花見では空に咲く桜に目がいきませんが、あえて地面の芽りに注目したのは鋭いですね。お弁当からこぼれた米つぶをすかさずかっぴいでいくアリたち。彼らを「かぞく」と見て、力を合わせたくましく生きている姿を描き出しました。



名句に学ぼう

見る・聞く・味わう 五感総動員

目は青葉山ほととぎす
初鱈 山口泰堂

「青葉」ほととぎす「初鱈」と初夏の名物を三つ並べた、江戸時代の有名な俳句です。今の時期につぶやくのに、最適。実はこの並べ方には意味があるんです。目で見る青葉、耳で聞くホトトギスの声、舌で味わう初がとおといったように、感覚を総動員して初夏を楽しんでいるんですね。作者は、初夏の鎌倉をほめるために詠んだようです。ちなみにこの句、「目で青葉」と覚えられていることが多いのですが、正しくは「目には青葉」。五首であるべきところが六首にあふれてしまっただけ、句にこめた感動が強いことを表しています。字余りが効果的な場合もあるんですね。

新聞@スクール

Q 意欲失う新入生 どう対応？

例年、入学して1か月ほどで、やる気をなくす生徒がいます。第1志望ではなく不本意な進路だったという場合もあると思います。縁あって入った我が校で頑張ってもらおうには、どうすればいいでしょうか。(神奈川県 私立高校 30代女性)

先生の相談室

人。日々成長する若者には、試練の重さを身をもって体験したことを、今後の糧にしてほしいと思います。

新型コロナウイルスの感染拡大により、多くの学校が、年度末から年度初めに続く長期休校という異常な状況にあります。それでも、このような状況に立ち向かうことで学ぶことも少なくありません。若者は自分の使命を認識するかもしれないし、この経験を将来的な技術開発や文学、芸術分野まで幅広く生かそうとするかもしれないませ

若者たちの指導と育成に責任を持つ教師も、この試練を無駄にしてはいけません。せっかくな進学しても「不本意入学だから」と学習意欲を失ったり、早々に退学したりする生徒は確かに少なくないのですが、今こそ、失われがちな学校教育に対する期待と信頼を取り戻す時ですよ。それには、新入生たちの学校への期待が色あせ、学びの意欲

ややる気を失うことがないよう、様々な工夫が必要です。いくら学びの手段はいろいろあるといっても、若者が周囲の誘惑をはねのけながら自分ひとりの力で必要な知識や教養、社

A 本音を理解 保護者支えて

会生活への対応力を身につけていくことはとても難しいのです。一方、学校は、必要な知識を無駄なく学べる場所です。なぜなら、そこには生徒たちの求めに十分対応できる教師がいるからです。

不安な気持ちを抱える新入生をどう迎えるか。教師は休校中に何をすればよいか。今後どのような学校作りに取り組むのか。しっかり考えてください。



イラスト・松原由香

* 回答者

鈴木高弘さん。都立足立新田高校長として、実践型・体験型の授業を取り入れ、中退者が多かった同校を人気校に変えた。



*先生からの悩み相談にお答えします。質問はメールやファクスで下記まで先へ。お名前と連絡先を明記してください。秘密は厳守します。

新聞@スクール

KODOMO

俳句

選者・高柳克弘

これからの季節に出てくる、ナメクジや蚊、ムカデなど。彼ら嫌われものも、すべて夏の季語。俳句では、美しいとかみにくいとかで差別はしません。日本の夏をいっしょに生きているなかまたちと思うと、ちよっぴりかわいく見えてくるかも。



イラスト・松原由香

たかやなぎ・かつひろ 10000
年生まれ。句集「未踏」で第一回田中裕明賞受賞。芭蕉の俳句を研究。

このまちの葉桜が好き空が好き
大阪府 豊中市立東丘小学校6年
吉井倫子

【評】「葉桜」を、もしアジサイやエニシダに変えたら、この句は成り立ちません。葉桜で見事な桜並木が想像でき、さわめく葉のすきまに見える青空のまぶしさも実感できるのです。「好き」を繰り返したリズムも、街歩き楽しさを伝えていきます。

春キャベツロールキャベツやおりょう理
奈良県 橿原市立今井小学校4年
新宮奈々子

【評】この句も「キャベツ」が二回出てくるリズムが軽快ですね。一読、ロールキャベツが作りたくなりました。料理をしながら感じる、春キャベツのしっとりとした手触りと、やわらかさ。料理をするといっこのは、季節を受け止めることなんですね。

ホカホカの手袋の中通信ほ
東京都 聖心女子大学付属小学校5年
香月美音

【評】「手袋」は冬の季語。冷たい風の吹く道を帰ってきたけれど、手袋のおかげで、手はほかほか。その手で差し出す通信簿は、きつと家族にじまんしたい内容だったにちがひありません。「ホカホカ」の語は作者の心もまた、存分に語っています。

羽がほしい桜の中にとまりたい
山形県 山形市立校田小学校4年
鈴木あおい

【評】「羽がほしい」というインパクトのある表現から始まっていて、ひきまれます。鳥になって桜の花びらに埋もれたいというのは、桜の美しさへの、最上のほめ言葉といえるでしょう。翼に触れる花びらの感覚を読む者に思わせる、繊細な一句。



もっと伝わる直し方 欲張らず すっきり簡潔に

今回は芭蕉の弟子・去來の添削を紹介します。
時鳥帆裏になるや明石瀾
先放(添削前)

時鳥の声が聞こえたので、港にそちらを見てみると、港に入っていく船の帆の裏に隠れるように飛び去っていった、そこは明石の港だった、という意味。この句について去來は「明石瀾」までいうとしつこいので、「夕まぐれ」と時間帯を示すくらいで良いと助言します。

時鳥帆裏になるや夕まぐれ (添削後)

俳句は短いので、欲張らずに、すっきりと簡潔に！ということですね。実は古典文学の世界で、時鳥と明石は、オーストラリアとコアラくらい定番の関係。そのありきたりなところも、避けたかったでしょう。

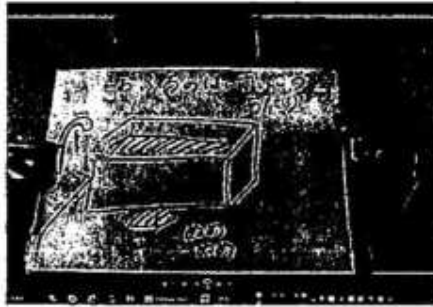
新聞@スクール

貧困の子支援 オンラインで

新型コロナでNPO法人

経済的に苦しい家庭の子どもたちを支援してきたNPO法人が、新型コロナウィルスの感染拡大を受け、オンラインを活用した取り組みを始めている。タブレット端末などを提供し、画面を通じて勉強を教えたり、さまざまな交流をしたりして、子どもたちの「心の安定」につなげている。

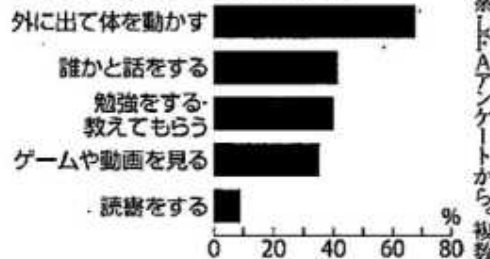
自治体と連携し、年間約1000人の小中高生を支える東京のNPO法人「Learning for All(LFA)」は、オンラインによる支援を取り入れた団体の一つだ。



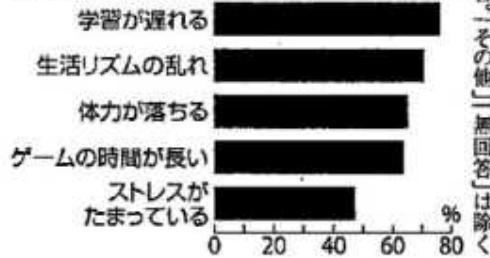
画面上で「ぬめぬめ」した場所の絵をかき出す女性職員(LFA提供)

「質問ゲームをします。幸せってどんなとき？」タブレット端末の画面に映る女性職員の問い掛けに、自宅にいた小学生の女の子は「縄跳びですごくいいことができるとうれしい」

子どもたちが今したいことは



保護者が子どもについて不安なことは



※LFAアンケートから。複数回答。「その他」「無回答」は除く

と答えた。「簡単な技でも？」「それはうれしくない」。笑顔のやりとりが続くと答えた。「簡単な技でも？」「それはうれしくない」。笑顔のやりとりが続く。

正解のない問いについて考える「こどもてっせ」は、身の回りで「ツンツン」した場所や「ぬめぬめ」した場所を探して描き、端末のカメラにかざして見せ合う。ひとり親の小学生らを対象に、ビデオ会議システム「Zoom(ズーム)」を

利用して居場所を提供する支援の一面だ。支援活動は週5日、生活リズムや習慣を維持するため、午前10時に朝の会を開く。昼には端末の前でみんなで食事をして、その後、端末の画面分割機能を使って「だるまさんが転んだ」という遊びやお菓子作りを楽しむ。

者への要望を受けたものだ。アンケートの結果、子どもたちからは「オンラインで勉強を教わりたい」「スタッフと話したい」との回答が多く、保護者の大半はオンライン授業を希望した。LFA代表理事の李炯植さんは「オンラインでつながっていけば貧困家庭の孤立を防ぎ、必要な経済的支援を行政につなぐこともできる。子どもにとって安心安全な場所を確保することになる」と話す。

学習支援では難しさもある。対面では問題を解く子どもの手元を見て、どの段階でつまづいたのか分かったが、オンラインでは、カメラの角度によって手元が見えない場合もある。学校再開後は不登校の増加も心配される。LFAは、家に引きこもった子どもたちも支援できるように、学

◇

東京のNPO法人「キッズドア」も、東京、仙台など全国65教室で実施していた学習会を中止し、4月末からオンラインによる学習支援に切り替えた。子どもたちはズームのシステムを使い、画面を通じてボランティアから勉強を教わっており、受講者は延べ470人を超えた。パソコンや無線LAN

「WiFi」環境がない家庭の場合は、わからない問題があればLINEの機能を使って撮影・送信してもらい、解き方の説明などを書いて返信している。渡辺由美子理事長は「感染の第2波、第3波の懸念もある。低所得世帯のオンライン学習などの整備は迅速に進めてほしい」と話す。

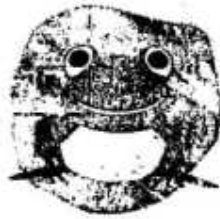
新聞@スクール

KODOMO

俳句

選者・高柳克弘

メダカは夏の季語とされていますが、個人的には春のイメージでした。最近、人にメダカをもらい、庭の水鉢で飼ってみて、夏の季語であることに納得できました。細くて透きとおるような体は涼しげで、見ていると暑さをまぎらわせてくれます。



イラスト・松原由香

たかやなぎ・かつひろ 19800
年生まれ。句集「未踏」で第一回田中裕明賞受賞。芭蕉の俳句を研究。

たけのこは皮をむいたらマトリョーシカ

和歌山県 美浜町立和田田小学校4年

村本紗理維

【評】マトリョーシカは、ロシアの入れ子人形で、中から次々に人形が出てくる仕組み。タケノコも、皮をむけばまた皮があって、確かに両者は似ています。地味なタケノコとカラフルなマトリョーシカとの思いがけない出会いにワクワクします。

はなあかり花びらついた祖母のつえ

奈良県 奈良市立六条小学校6年

甲斐田倫

【評】「はなあかり」は満開の桜で夜でも明るく感じること。たてかけた「祖母の杖」の先端に、屋間見た桜の花びらがくっついていたので、花見のにぎわいの名残のようで、ちょっとさびしい感じ。杖の花びらに目をとめた感性が細やかでした。

さくらゆきふたりのペアははじめてね

東京都 新宿区立西戸山小学校2年

二宮亜未

【評】桜が咲いたあとで雪が降った日がありましたね。「ペア」というと、桜と雪が空中でダンスをしているようで、面白いなあ。晴れた日の桜もいけれど、雪の積もった桜もすてき。今まで知らなかった桜のうつくしさを見つけた作者に、拍手！

春の池その名知らずにかわすとぶ

兵庫県 宝塚市立山手台小学校4年

津組泰輝

【評】有名な庭の池でも、そのへんの池でも、蛙にとってはおかまひなし。人間の社会で、たくましく生きていく蛙の姿が痛快です。令和の今も元気に跳んでいるよと、「古池や蛙飛びこむ水の音」の作者芭蕉に話しかけているような、楽しい一句。



KODOMO歳時記

若葉激しく揺らす青嵐

季語の辞典である歳時記には、風の季語がたくさん載っています。今回紹介するのは夏の季語の「風薫る」。青葉若葉のかおりを、風が運ぶことをいいます。窓を開けて、外の風を呼びこみ、風が薫っているかどうか、確かめてみましょう。「風薫る」ともいいます。

風薫るは心地よい風ですが「青嵐」は激しい風。青葉若葉を揺らして吹く風のこと、風が青く染まっていると見た表現が詩的です。うさかざる一点がわれ青嵐

石田郷子

荒々しい青嵐に吹かれながらも、風薫るの「一点」として、自分はびくともせず立っている、というので、誰かを待っているのか、考えにふけっているのか、力強い意志を感じます。

新聞@スクール



学校現場から

分散登校「話し合い」避け



担任教員は児童の提出物をチェックし、「頑張ってるね」などと励ました(22日)

東京都二鷹市立
南浦小学校

東京都の緊急事態宣言が25日解除され、休校は今月末で終了することになった。

6月1日からは、全学年で35人前後の各クラスを2分割し、「午前授業と給食」、「給食と午後授業」のいずれかを週3日割り当てる。

「いよいよ新学年の学習を進められる。教室内の児童数が増

えるので、さらに感染対策に気をつけたい。藤原和彦校長(56)はそう語った。

今月中旬から各クラスを3グループに分け、登校日を週2回設けていたが、正規の授業ではなく、前学年の復習が中心だった。学年ごとに、前学年の課題プリントを家庭学習用に渡しており、子供たちは自宅で解いてきた。

例えば、22日に登校した5年生は、4年生の「小数の割り算」の課題プリントや、苦手な漢字

などを練習した自主学習ノートを提出し、担任教員からチェックを受けていた。教室内に座っている児童は10人程度で、教員は一人ひとりに目が行き届きやすい。その一方

東京都足立区立
江南中学校

生徒数123人。各学年1〜2学級と小規模な点を生かし、1学級を複数の教員が受け持つ「複教担任制」を導入している。

個別面談 生徒の不安聞く

で、飛沫を防ぐため、話し合い活動などは控え、盛り上がり欠ける面もあった。6月1日からの本格的な再開で今年度は実質的なスタートを切る。

(渡辺光彦)

「子供たちがいてこそこの学校。6月からの再スタートに向けて、準備をしっかり進めたい」

東京都の緊急事態宣言が解除された25日、水谷正博校長(57)は笑顔を見せた。

3月2日に始まった休校は、春休みを挟んで3か月近くに及んだ。学校が今月上旬、全生徒を対象に実施したアンケートでは、「気分が落ち込む」「友達と会えずに寂しい」といったストレスを感じている生徒が約3割に上った。

ストレスや学習の遅れにきめ細かく対応するため、今月18、19日、各学級の担任教員と生徒が初めて個別に面談した。「自分一人では勉強が進まない」「進路が決まるだろうか」。面談は1人20分以内だったが、生徒の悩みや不安を確かめられた。「短時間でも一人一人と顔を見ながら話せて本当によかった」と大谷雅也副校長(58)。

これまで月3回程度、学年ごと「臨時登校日」を設け、家庭学習の課題プリントの受け渡しと、教員から学習や生活に関する指導を行ってきたが、「密集」などを避けるため、体育館を使い、滞在時間も限られていた。6月1日からは、学年ごとの「分散登校」を始め、約3か月ぶりに授業も再開する。

(鯨井政紀)

東京都内の小中2校を記者が訪ね、随時リポートします。



臨時登校の際は、学年ごとに分かれ、体育館に集まる。イスは前後左右2メートル間隔で置かれている